

〔徳川禁令考三十五關所并渡船場〕元治元子年九月二日

長崎表新關取建ニ仕御書付

和泉守殿御渡

三奉行江

此度、長崎表出入之口々、日見、西山、浦上、茂木、四ヶ所江新關取建候ニ付而ハ、諸家家來所用ニ而通行候ハ勿論、假令主人用向たりとも、兼而主人又ハ其役方之者より、長崎奉行所江判鑑差出置、右可引合判鑑持參不致者ハ、右關所おゐて出入共差留候筈ニ候、且百姓町人職人之類、商賣又ハ稼之ため、或ハ所用有之通行之者ハ、其所之村役人、町役人之印紙持參出入可致旨、御料ハ御代官、私領ハ領主地頭より不洩様可被相觸候、
右之趣可相觸候

九月

〔嘉永明治年間錄十六〕慶應三年十二月、關ヲ江戸四方ニ置ク、

爲市中在取締、當分の内、御府内出口所々へ關門御取建相成、諸士の分ハ主人、又ハ重役より何方へ家來幾人差遣旨斷書、百姓町人ハ所役人の添書持參無之に於てハ、出入共一切通行差留置、斷書添書其關門にて相改め、疑敷子細も無之候へバ、於同所切手相渡候間、右切手所持不致旅人は、御府内ハ勿論、道中筋並在々にて、決て旅宿爲致間敷候、右改不受押て通行可致と仕り、又ハ旅行切手所持不致旅人ハ無用捨召捕、若及手向候ハ、切捨候筈に候、尤當時出府途中にて、關門通行方不相辨者共ハ、於關門篤と相糺し、疑敷筋無之候へバ、相通候筈に候、
右之趣、御料私領寺社領とも、不洩様可相觸候、

〔憲法類編十一〕諸道關門廢止等ノ事、

戊辰明治元年五月十七日御布告

一 諸國街道筋ニ於テ、私ニ關門或番所等取建候儀、被停止候事、